

2015



白

岐阜の



文

然

芸

化



術



を

す

発

る

信

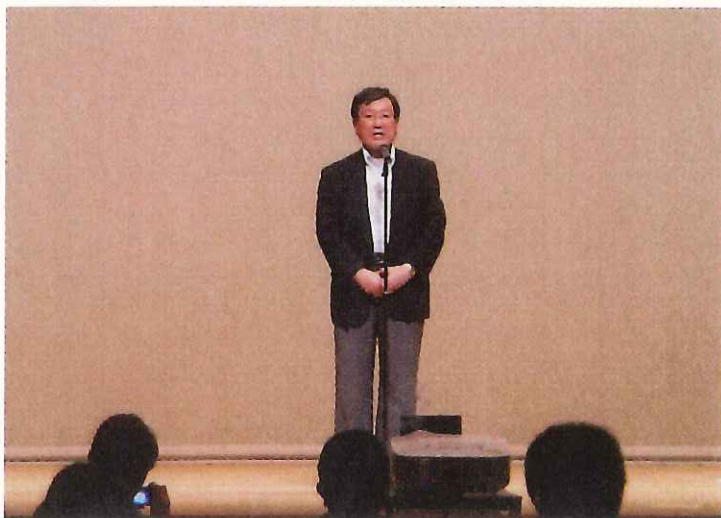
!



2015年7月12日(日) 岐阜市のじゅうろくプラザで開催された第30回岐阜シンポジウム「岐阜の自然・文化・芸術を発信する!」では、「リブロ岐阜学」シリーズVol.1『岐阜の自然・文化・芸術』の出版を記念し、岐阜大学の教員と学生が、岐阜県の自然・文化・芸術をどのように捉え、それをどう県外・海外へ発信して行くのかを報告、議論しました。第1部は、大学教員による研究報告、インターミッションとして、学生によるポスター・セッション、ロビーでの展示、第2部はゲスト・アーティストを迎えての「映像コンサート」および、学生の発表、地域協学センターの報告、そして最後に「郷土の教育」について共同討議を行いました。

### 【プログラム】

- 1 作品発表 「郡上カンタービレ〜チェロ独奏のための」作曲:岡田加津子+チェロ:櫃本瑠音
- 2 研究発表 「岐阜県の方言」発表者:山田敏弘
- 3 研究発表 「柳田民俗学と岐阜県」発表者:田澤晴子
- 4 研究発表 「岐阜県の植物誌」発表者:須山知香
- 5 作品発表 「円 空 景」(17min. 2014年)  
映像:野村幸弘+作曲・鳴物:岡田加津子+能管:野中久美子+パーカッション:渡辺 亮
- 6 研究発表 「手力雄神社火祭りの研究」発表者:岩崎誠+丸山純平+渡邊祐子
- 7 研究発表 「地域協学センターの取り組み」発表者:大宮康一
- 8 共同討議 「郷土教育について」パネリスト:山田敏弘+田澤晴子+須山知香+浅井彰子+野村幸弘
- 9 作品発表 「風玉 (かぜだま)」  
イラスト・パーカッション:渡辺 亮+能管:野中久美子+パフォーマンス:岡田加津子+野村幸弘
- 10 作品展示 野村幸弘 映像作品「手力雄神社帆祭り」
- 11 研究発表 山田敏弘+国語教育講座学生によるポスターセッション
- 12 研究発表 須山知香+理科教育講座学生によるポスターセッション
- 13 作品展示 野村幸弘+美術教育講座学生によるパネル作品
- 14 作品展示 山本政幸+美術教育講座学生による写真作品



第30回岐阜シンポジウムで挨拶する  
森脇久隆岐阜大学学長

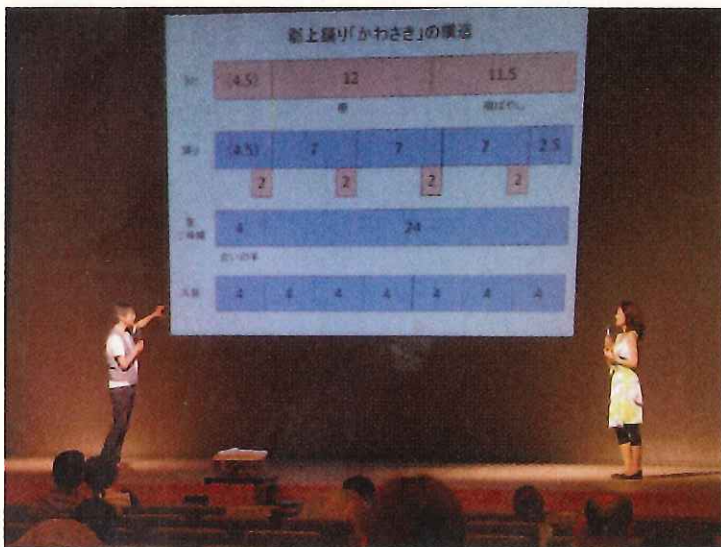


クロージングでシンポジウムの総括をする  
福士秀人岐阜大学理事(学術研究・情報担当)

岐阜に伝わる伝統的な音楽を素材に新たな現代曲を創造する

作曲:岡田加津子+チェロ演奏:櫃本瑠音

オープニングにあたり、岐阜県民ならどなたでも聴いてすぐわかるメロディーをもとに曲を書こうと思い、郡上おどりのの中から「かわさき」を選びました。「かわさき」は郡上おどりの演目の中でも、最もポピュラーな曲の一つでしょう。繰り返される太鼓のリズムや踊りの振りとは、別の流れを持つこの曲のメロディーは憂愁を帯びていて、そこに込められた、男女の間に通う切ない心情を、私はチェロの抒情的な音色に委ねようと思いました。(作曲家)

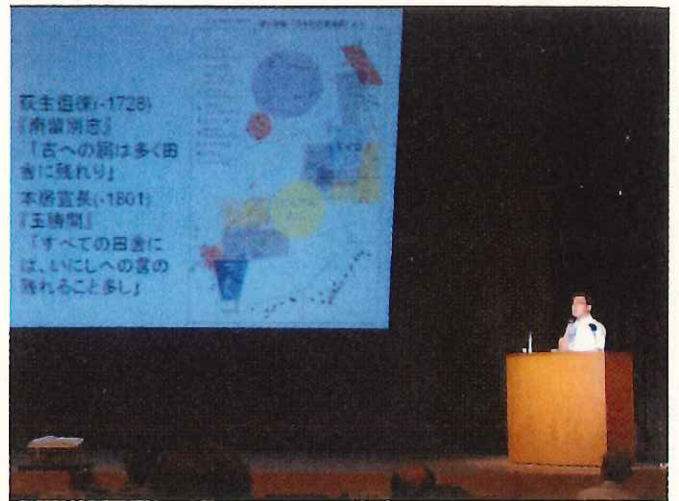


[左上] 熱演するチェロ奏者櫃本瑠音さん  
 [上] 作曲者岡田加津子さんとチェロの櫃本瑠音さん  
 [左] 郡上踊り「かわさき」の楽曲分析をする作曲者岡田加津子さん (聞き手:野村幸弘)

## 岐阜県の方言

山田敏弘 (岐阜大学教育学部教授)

日本の真ん中に位置する岐阜県。その岐阜県の方言の特徴は何でしょうか。アクセントは東京のことばに似ているのに、否定の「～へん」を使うなどは関西のことばに似ているなど、特徴を挙げると言われても戸惑う岐阜人も少なくありません。今回は、音声、語彙、文法、談話行動に分けて岐阜方言を分析し、東西それぞれの特徴の融和とその漸次的移行性こそが岐阜方言の最大の特徴であると位置づけて論じました。



## 柳田民俗学と岐阜県

田澤晴子 (岐阜大学教育学部准教授)

柳田国男 (1875-1962) は全国を旅しながら古来の民間習俗を研究する日本民俗学を構築した人物です。本報告では明治末期の岐阜県への2回の旅をとりあげ、その目的や意義について考察しました。また、柳田は同志と『郷土研究』を創刊し、各地の研究を積み上げて日本の歴史を民衆生活から描き出すことをめざしました。同誌寄稿者名簿に記された岐阜県関係者八名と柳田との関係について探りました。



## 岐阜県の植物誌

須山知香 (岐阜大学教育学部准教授)

山と水に恵まれた岐阜は、種類豊富な植物におおわれています。10年以上の歳月をかけてこの“ぎふのみどり”が調査研究されてきた集大成として“最新の岐阜県植物誌”が、まもなく刊行されました。これは岐阜県全地域の情報を網羅し、実物の標本に基づいた学術的価値の高い植物誌です。今回、岐阜における近代植物学黎明期の興味深い事柄とともに、植物誌の基となる植物標本について、その意義や重要性、作り方から保管の方法までを紹介しました。



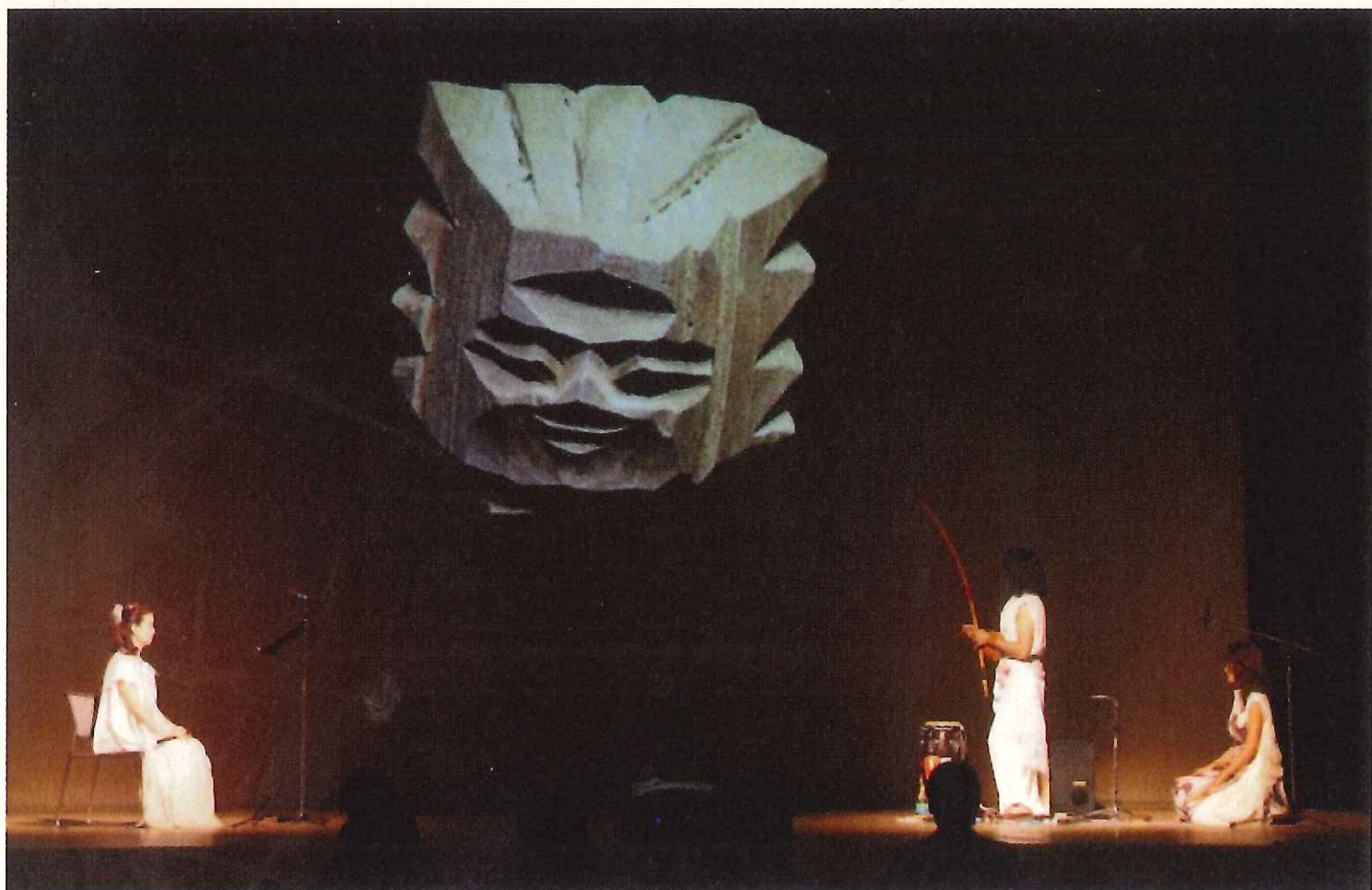
岐阜の芸術家とその作品を映像と音楽で表現する

映像作品「円空景」17min. 2014年

映像・脚本:野村幸弘(岐阜大学教育学部教授)+

作曲・鳴物:岡田加津子(京都市立芸術大学准教授)+能管:野中久美子+パーカッション:渡辺 亮

17世紀、江戸時代初期の遊行僧、円空は、生涯に12万体の仏像を作ることを発願した仏師でもありました。その作風は、東北・北海道の旅から戻った30歳代後半に劇的に変化し、晩年にいたるまで、次々と独創的な彫刻表現を生み出して行きます。それらは、奇しくも20世紀ヨーロッパの前衛彫刻を先取るものでした。その円空の生涯と作品をテーマにした短編映像作品を生演奏とともに上映しました。この作品は、2014年10月、京都の大徳寺で、2015年5月13日にフィレンツェで、5月17日、18日にミラノ万博2015でも上映されました。



映像作品「円空景」上映・演奏風景

### 手力雄神社火祭りの研究

岩崎 誠 (岐阜大学工学研究科1年)

丸山純平 (岐阜大学地域科学部4年)

渡邊祐子 (岐阜大学教育学部3年)

岐阜市の手力雄神社を舞台に繰り広げられる「手力の火祭り」は、岐阜県重要無形民俗文化財に指定されている歴史あるお祭りです。岐阜大学では、第30回岐阜シンポジウムのプログラムの一つとして、学生による研究発表を取り入れることにしました。学生たちは2015年2月より現地入りし、地域住民のご協力を得ながら調査を進め、これまで文献や資料ではあまり述べられてこなかった、神社周辺の地区ごとの特色など、学生ならではの視点を活かした研究となりました。

(岐阜大学教育推進・学生支援機構・准教授 廣内大輔)



研究発表する丸山純平さん

### 地域協学センターの取り組み

大宮康一 (岐阜大学地域協学センター特任准教授)

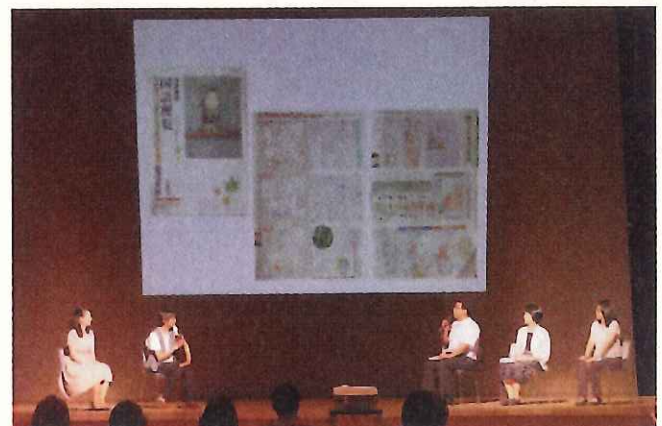
岐阜大学地域協学センターは、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に採択されたことに伴い平成25年12月に設置されました。岐阜大学が地域にとけこむ大学を目指し、また地域のリーダーとなる人材の育成と輩出を目指して、教育(次世代地域リーダー育成プログラムの展開)、研究(地域志向学の推進)、社会貢献(フューチャーセンターの設置・活用)の観点から全学的に取り組んでいます。本発表では、当センターの活動や取り組みを皆様にご紹介しました。

## 共同討議

### 郷土教育について

山田敏弘+田澤晴子+須山知香+浅井彰子+野村幸弘

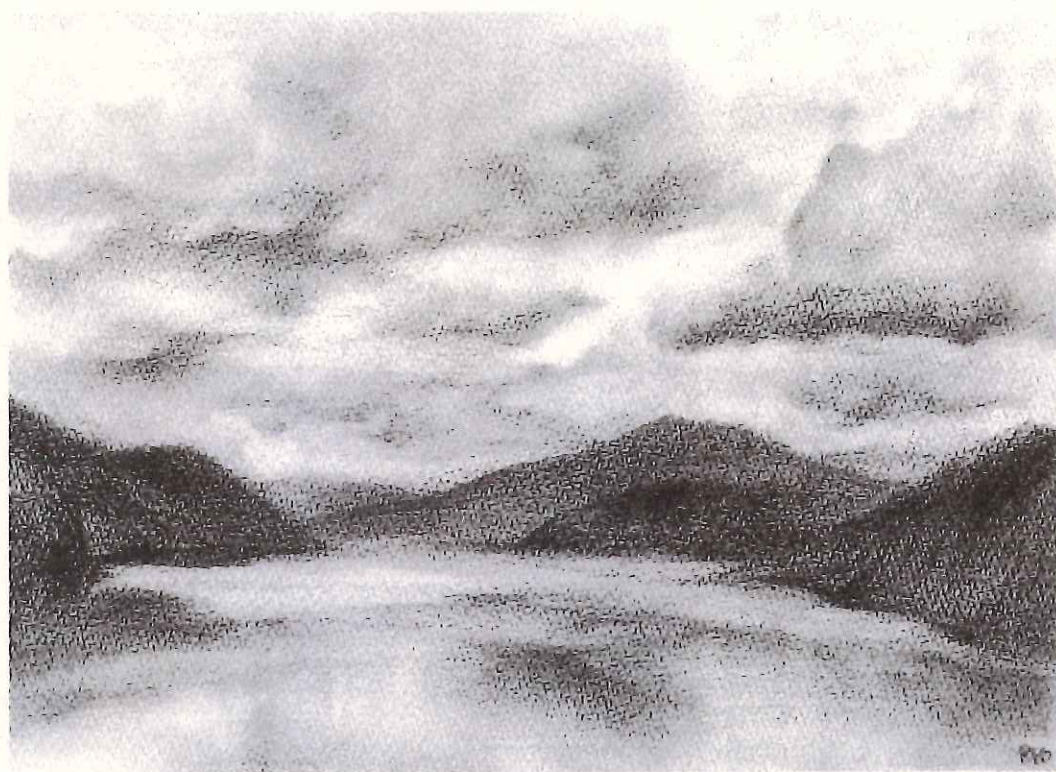
岐阜の自然・文化・芸術を発信するには、どうしたらいいか。それには、まず、次世代を担う子どもたちに、郷土教育を行うことから始めるといいのではないのでしょうか。地域の何をどのように次の世代に受け渡していくのかについて、郷土教育の現在をふまえながら、教育学の視点から議論しました。



岐阜に伝わる伝説を絵と音楽で表現する

イラスト・パーカッション:渡辺 亮+能管:野中久美子+パフォーマンス:岡田加津子+野村幸弘

岐阜県揖斐郡揖斐川町に今も残る、風玉 (かぜだま) という鬼火の伝承をモチーフにしたイラストと演奏を行いました。

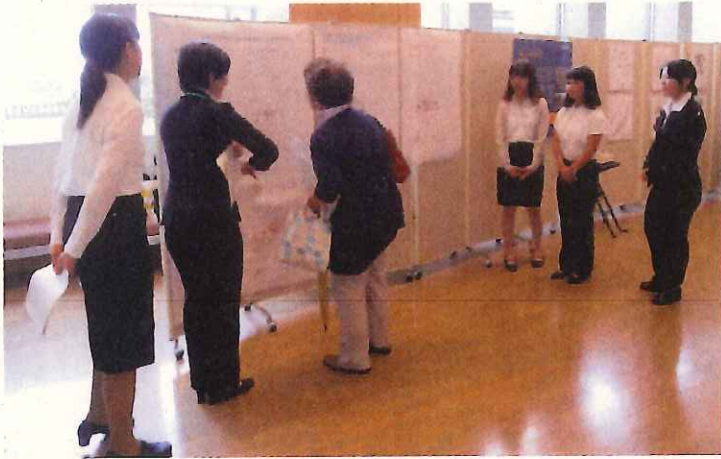


画:渡辺 亮



「風玉」演奏風景

## ポスターセッション



岐阜大学教育学部国語教育講座の学生による  
ポスターセッション



岐阜大学教育学部理科教育講座の学生による  
ポスターセッションのために準備した資料

## 作品展示

### 岐阜の文化財を絵画で表現する



岐阜大学美術教育講座3年生によるパネル絵画

### 岐阜の都市を写真で表現する



山本政幸+岐阜大学美術教育講座2年生による組写真

### 岐阜の祭礼を映像で表現する



野村幸弘 映像作品「手力雄神社火祭り」(14min. 2015年)